

特別企画

研究所設立 60 周年

弊社の研究所は1956年(昭和31年)4月会社設立60周年を記念して、それまで各工場に付属していた研究部門を統合し鶴見工場の敷地内に設けられました。開設当初から我が国で初めての熱間性能試験機や、国内で数台目というガイガーカウンターX線回折装置などを擁する総合研究機関となりました。その後も常に研究開発体制の強化と新鋭機器を導入し、1994年には浜松研究所を新たに開設し、現在に至ります。

弊社の研究開発は基礎研究を担う鶴見、浜松の両研究所と、製品の開発や改良、製品評価などを担う各事業本部傘下の「テクニカルセンター」で双方が密接な連携のもと進めております。

また、これらを支援する専門分野として分析解析室、CAE室を設置し、高度な分析技術やシミュレーションを通じて開発支援を行っています。

ロックウールをはじめとするロングセラー製品の改良や機能向上に取り組む一方で、最新技術を盛り込んだ革新的な製品の開発にも着手。基盤である「断つ・保つ」の技術の深化を図り、先進技術へと進化させていくこと。それがニチアスの研究開発であり、ものづくりへのこだわりといえるでしょう。

鶴見研究所



設 立：1956年4月
敷地面積：4,300m²
組 織：研究開発部門、分析解析室
テクニカルセンター

浜松研究所



設 立：1994年3月
敷地面積：20,350m²
組 織：研究開発部門、CAE室
テクニカルセンター

研 究 所

製品開発の土台となる素材の基礎研究

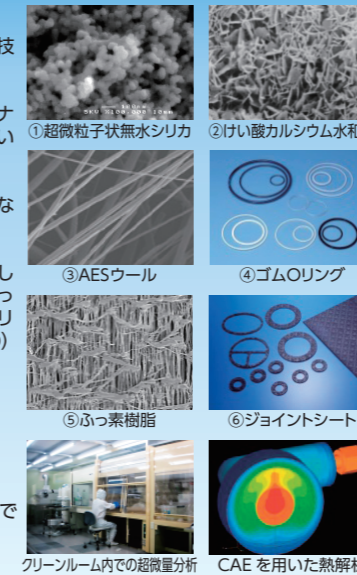
研究開発部門

無機・有機材料に関する基盤技術の研究・開発

・高性能な断熱材の基となるナノレベルの微粉末材料やけい酸カルシウム材料(①~②)

・AESウールやロックウールなど無機繊維(③)

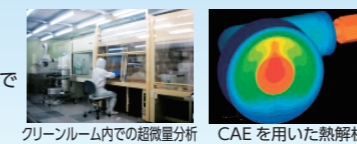
・半導体産業用途をはじめとした高機能ゴムシール材、ふっ素樹脂製品など、ハイクオリティな有機複合材(④~⑥)



分析解析技術

CAE技術

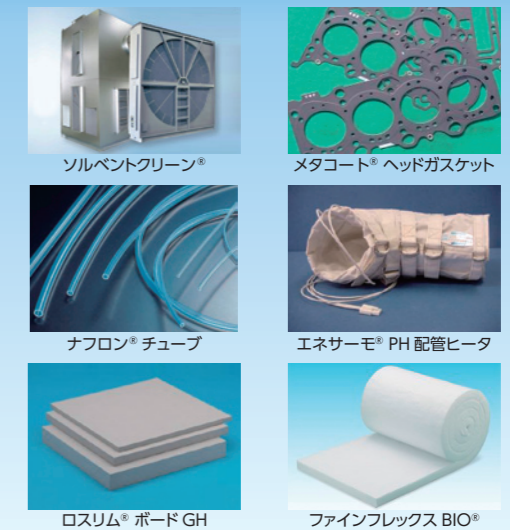
高度な分析技術やCAE解析で研究・開発を支援



テクニカルセンター

各事業本部の製品技術開発拠点

・製品開発、改良開発 ・顧客技術対応 ・各種評価試験



研究所のあゆみ

1956	1959, 1962	1982	1994	1997	2007
開設当初の研究設備	現在の主な研究設備				
熱間性能試験機	化学実験室	高分解能走査型電子顕微鏡	光電子分光装置(XPS)	実車半無響室	

2016
研究所設立
60周年



*®が付された製品名はニチアス(株)の登録商標です。